

## 第2章 今治市の地域福祉を取り巻く現状

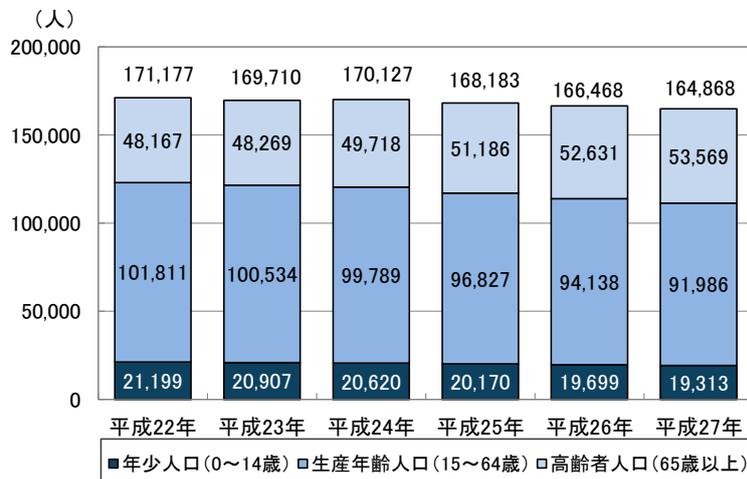
### 1 今治市の概要

#### (1) 人口・世帯の状況

##### ① 総人口、年齢3区分別人口

本市の総人口の状況を見ると、平成24年に増加したものの、以降は減少傾向にあり、平成27年では164,868人となっています。年齢3区分別人口の状況を見ると、0～14歳、15～64歳はともに減少傾向にある一方、65歳以上は年々増加傾向にあります。

##### ■ 総人口、年齢3区分別人口の推移



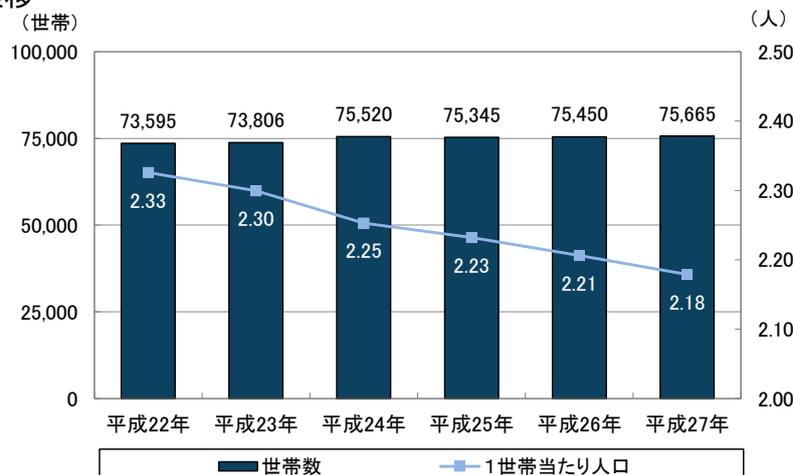
資料：住民基本台帳（各年9月30日）

※平成24年7月31日以降の人口は外国人住民が含まれているため、平成24年の人口が増加しています。

##### ② 世帯数

世帯数の状況を見ると、わずかに増加しながら推移しており、平成27年では75,665世帯となっています。1世帯あたり人口は年々減少し、平成27年では2.18人となっています。

##### ■ 世帯数の推移



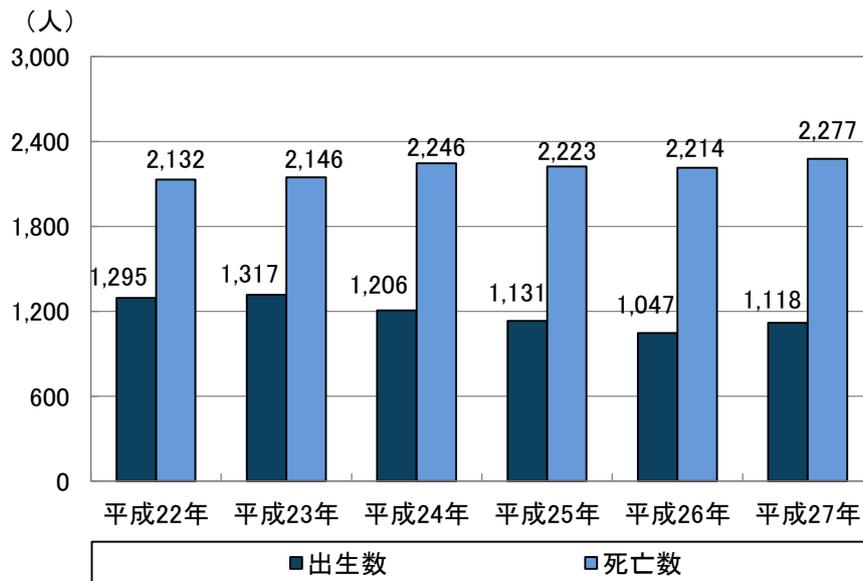
資料：住民基本台帳（各年9月30日）

## (2) 自然動態人口（出生・死亡）の推移

出生数の状況を見ると、平成23年以降減少傾向となっていました。平成27年には、平成26年と比べ、少数ながら増加し、1,118人となっています。

死亡数の状況を見ると、年によって増減はありますが、平成27年にはわずかに増加し、2,277人となっています。

### ■出生数と死亡数の推移

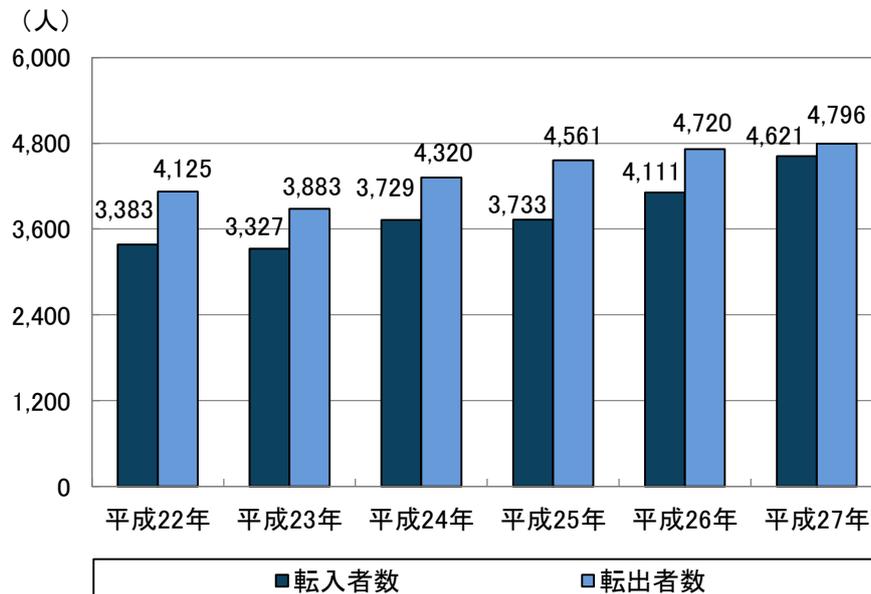


資料：人口動態に関する統計

## (3) 社会動態人口（転入・転出）の推移

転入・転出の状況を見ると、転入者数・転出者数ともに年によって増減はありますが、転出者数が転入者数を上回り推移しています。

### ■転入者数・転出者数の推移



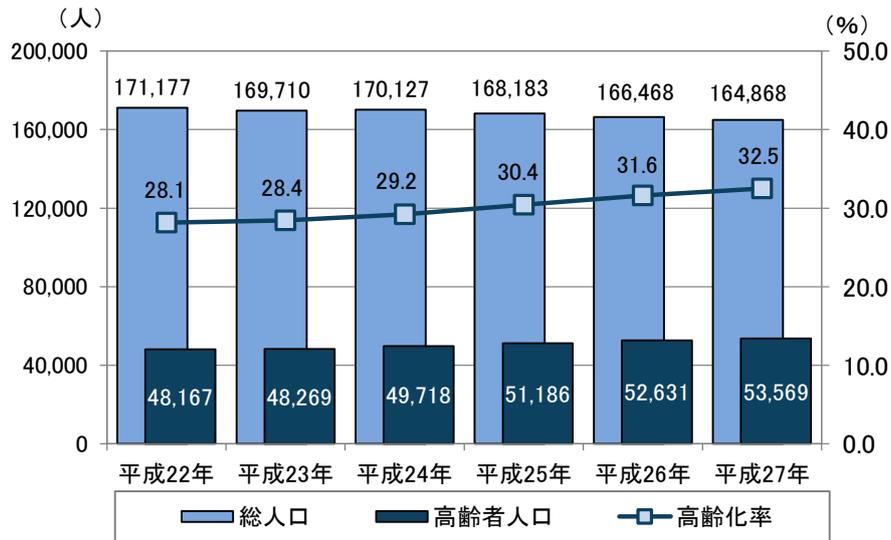
資料：人口動態に関する統計

## (4) 高齢者の状況

### ① 高齢者数の推移と高齢化率

高齢者数の状況を見ると、高齢化率は平成22年では28.1%だったのに対し、平成27年には32.5%と市民の3割以上が高齢者となっており、高齢化が進行しています。

#### ■ 高齢者数と高齢化率の推移

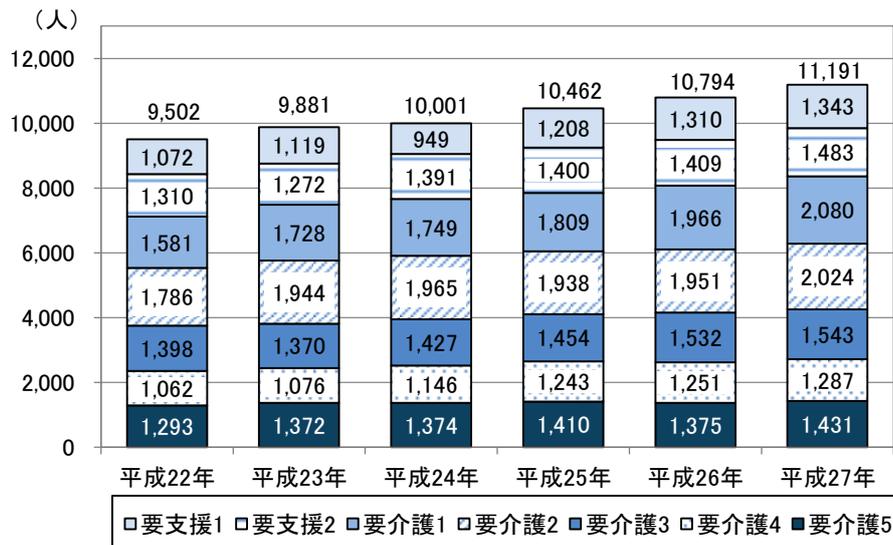


資料：住民基本台帳（各年9月30日）

### ② 要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数は年々増加しており、平成27年では11,191人となっています。介護度別にみると、要介護1が最も多くなっています。

#### ■ 介護度別認定者数の推移



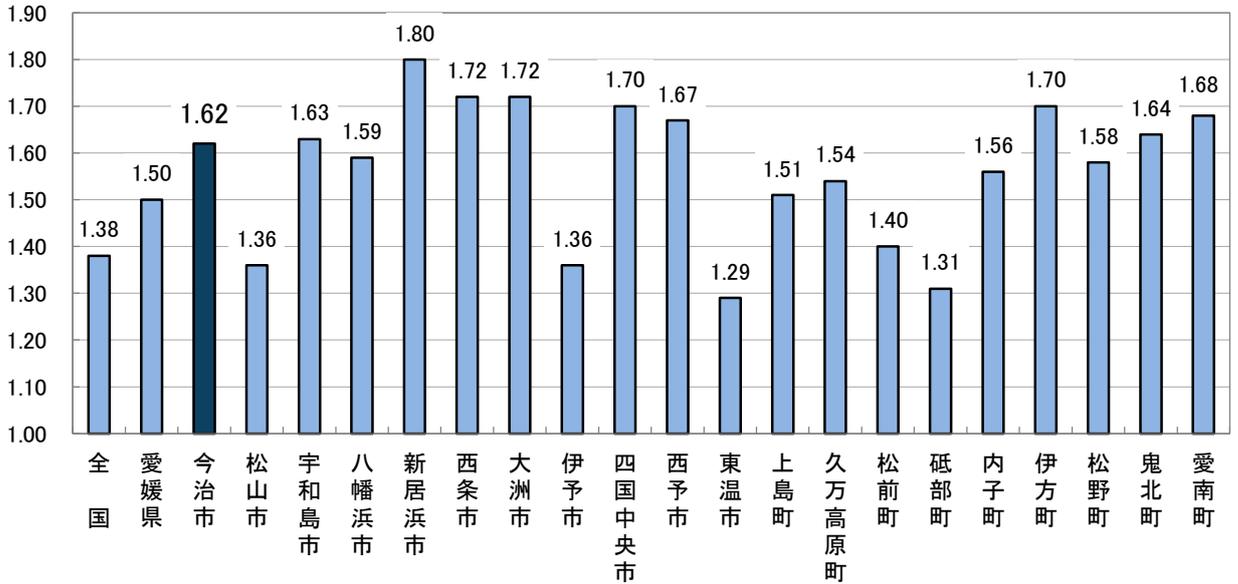
資料：介護保険事業状況報告（各年9月30日）

## (5) 子どもの状況

### ① 合計特殊出生率

合計特殊出生率についてみると、全国及び愛媛県を上回っています。

#### ■ 合計特殊出生率（平成 20～24 年）

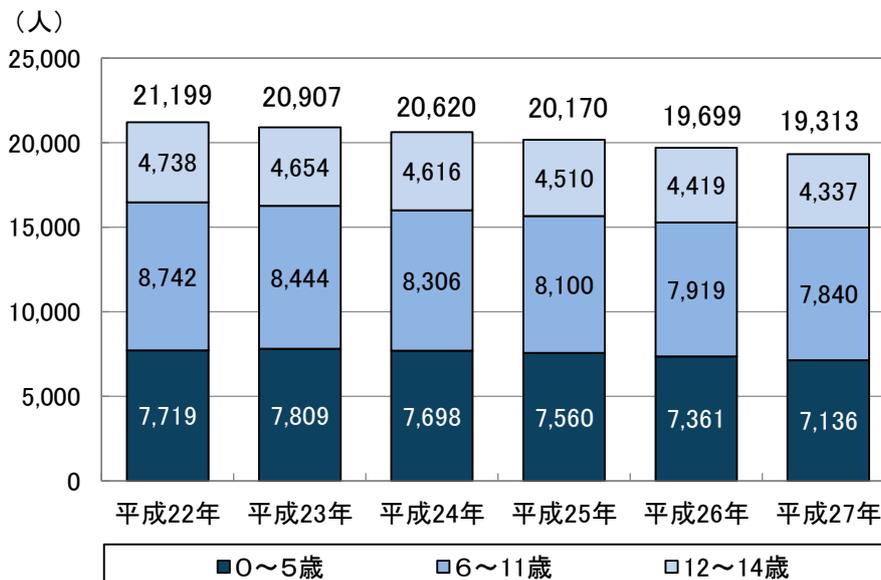


資料：平成 20～24 年人口動態保健所・市区町村別統計の概況

### ② 年少人口の推移

年少人口の推移をみると、年々減少しており、平成 27 年には 19,313 人となっています。

#### ■ 年少人口の推移



資料：住民基本台帳（各年 9 月 30 日）

## (6) 障がいのある人の動向

### ①身体障害者手帳所持者の状況

身体障害者手帳所持者数の推移をみると、所持者数の合計は減少傾向にあります。年齢別にみると、0～17歳、65歳以上では増加が続いていましたが平成27年には減少に転じ、18～64歳では減少が続いています。

#### ■身体障害者手帳所持者数の推移（年齢別）

単位：人

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
0～17歳	105	106	110	112	99
18～64歳	2,334	2,246	2,153	2,028	1,902
65歳以上	6,007	6,114	6,150	6,263	6,226
合計	8,446	8,466	8,413	8,403	8,227

資料：障害福祉課（各年3月31日）

### ②療育手帳所持者の状況

療育手帳所持者数の推移をみると、平成25年に減少したものの、増加傾向にあり、平成27年では、0～17歳が329人、18～64歳が894人、65歳以上が116人となっています。

#### ■療育手帳所持者数の推移（年齢別）

単位：人

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
0～17歳	304	321	311	328	329
18～64歳	855	870	864	895	894
65歳以上	107	104	111	114	116
合計	1,266	1,295	1,286	1,337	1,339

資料：障害福祉課（各年3月31日）

### ③精神障害者保健福祉手帳所持者の状況

精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移をみると、毎年増加しており、平成27年では、992人となっています。

#### ■精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移（年齢別）

単位：人

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
0～17歳	0	0	1	3	3
18～64歳	717	742	796	813	821
65歳以上	116	128	143	157	168
合計	833	870	940	973	992

資料：障害福祉課（各年3月31日）

## (7) その他

### ①外国人登録人口の推移

外国人登録人口の推移をみると、増減を繰り返しており、平成 27 年には 2,408 人となっています。本市では、製造業をはじめ、外国人労働者の受け入れが県内でも多くなっています。

#### ■外国人登録人口の推移

単位：人

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
外国人登録人口	1,962	1,924	2,043	2,408

資料：市民課（各年 9 月 30 日）

### ②生活保護世帯の推移

生活保護世帯の推移をみると毎年増加していましたが、平成 27 年には若干減少し、1,457 世帯となっています。

#### ■生活保護世帯の推移

単位：世帯

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
生活保護世帯	1,338	1,406	1,475	1,496	1,457

資料：生活支援課（各年 3 月 31 日）

### ③生活保護受給者の就労支援の状況

生活保護受給者の就労支援の状況をみると、平成 25 年では 5 人、平成 26 年では 14 人が就労支援によって就労されました。

#### ■生活保護受給者の就労支援の状況 単位：人

	平成 25 年	平成 26 年
支援対象者	50	35
達成者数	5	14

資料：生活支援課

## (8) 社会資源の状況

### ①自治会の加入世帯・加入率

自治会の加入世帯、加入率ともに、減少しています。

#### ■自治会の加入世帯・加入率

単位：世帯、%

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
加入世帯	59,623	59,214	59,038	58,853	58,124
加入率	80.6	78.9	78.3	78.0	76.6

資料：市民生活課（各年7月1日）

### ②地区婦人会数、会員数

地区婦人会数は平成 27 年に 16 団体に減り、会員数も同様に年々減少しています。

#### ■地区婦人会数、会員数

単位：団体、人

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
地区婦人会数	17	17	17	17	16
会員数	2,117	2,055	1,959	1,861	1,650

資料：社会教育課（各年4月1日）

### ③老人クラブ数、会員数

老人クラブ数、会員数は年によって増減を繰り返しており、平成 27 年は 156 団体、11,815 人となっています。

#### ■老人クラブ数、会員数

単位：団体、人

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
老人クラブ数	161	149	161	158	156
会員数	11,752	11,504	11,957	11,887	11,815

資料：高齢介護課（各年4月1日）

### ④児童クラブ数、在籍児童数

児童クラブ数は、平成 27 年に小学校 4 校が統廃合したことにより 27 団体に減少していますが、在籍児童数は年々増加しています。

#### ■児童クラブ数、在籍児童数

単位：団体、人

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
児童クラブ数	29	29	29	29	27
在籍児童数	1,140	1,148	1,160	1,180	1,281

資料：子育て支援課（各年4月1日）

## ⑤ 民生委員・児童委員相談・支援件数

民生委員・児童委員相談・支援件数は増減を繰り返しており、平成 26 年は 10,935 件となっています。

### ■ 民生委員・児童委員相談・支援件数

単位：件

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
民生委員・児童委員 相談・支援件数	11,148	11,095	11,578	10,935

資料：福祉政策課

## ⑥ ボランティア登録状況

今治市社会福祉協議会のボランティア登録数は、団体・個人とも年々増加しており、平成 27 年には 66 団体、個人は 219 件となっています。

### ■ ボランティア登録状況

単位：団体、件

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
団体登録数	60	60	63	66
個人登録数	120	153	178	219

資料：今治市社会福祉協議会（各年 3 月 31 日）

## ⑦ 自主防災組織結成状況

自主防災組織の組織率は、平成 26 年に若干減少したものの、平成 27 年には 71.1% と増加しており、組織数は、年々増加傾向にあります。

（自主防災組織率＝組織されている地区の世帯数／市内世帯数）

### ■ 自主防災組織結成状況

単位：団体、%

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
組織数	432	456	462	473
組織率	68.9	70.4	70.2	71.1

資料：防災危機管理課（各年 10 月 1 日）

## 2 アンケート調査からみる今治市の現状

### (1) アンケート調査の概要

#### ①調査の目的

本市では、平成 22 年 3 月に「つながりと支え合いのある安心して暮らすことのできるまち」を基本理念とする「今治市地域福祉計画」を策定し、子どもから高齢者まで全ての人々が支え合い・助け合えるまちづくりに取り組んできました。

今回、「第 2 期今治市地域福祉計画」を策定するにあたり、「日常生活での課題」や「地域での助け合いに関する考え方」等についてのニーズを把握し、「第 2 期今治市地域福祉計画」づくりの基礎資料とするために平成 26 年度に本調査を実施しました。

#### ②調査対象者

**市民アンケート**：平成 26 年 10 月 31 日現在、今治市在住の 18 歳以上の市民 3,000 名を無作為抽出

**福祉関係団体アンケート**：今治市の福祉関連等社会活動団体から抽出した 308 団体

#### ③調査方法

郵送による配布・回収

#### ④実施期間

平成 26 年 12 月 12 日～平成 26 年 12 月 26 日

#### ⑤回収状況

	配布数	回収数	回収率
住民アンケート	3,000 件	1,326 件	44.2%
福祉関係団体アンケート	308 件	241 件	78.2%

## (2) 市民アンケート調査結果の概要

### ①福祉について

年代が上がる程に福祉への関心は高くなり、10代・20代の低さが目立つ。

#### 【福祉への関心】(問5)

「とても関心がある」(23.8%)、「やや関心がある」(47.9%)と7割以上で関心があるとなっているが、18-29歳で「とても関心がある」割合は他の年齢層と比較して低くなっている。

#### 【福祉について理解を深めるために必要な機会】(問7)

「福祉の制度、サービス、理念や考え方について学ぶこと」(51.1%)、次いで「地域で福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」(48.4%)、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」(45.2%)となっている。

### ②地域について

災害時の支え合いには「日ごろからの隣近所との付き合い」が必要だと認識されているが、現状の近所付き合いは「あいさつをする程度」が多い。  
更に現状に「満足している」「おおむね満足」が5割を超えている。

#### 【地域の範囲】(問8)

「自治会の範囲」(37.0%)、「小学校区の範囲」(19.8%)を地域とイメージする割合が高い。

#### 【災害時の地域での支え合い】(問14、15)

災害発生時に手助けが必要な人が近所に「いる」(38.2%)、「いない」(22.9%)、「わからない」(35.4%)となっており、災害時に住民が支え合う地域づくりのために必要だと思うものでは、「日ごろからの隣近所のお付き合い」(66.3%)、「避難する際に手助けが必要な人の把握」(45.5%)、「地域での避難訓練、防災マップづくり」(33.9%)、「避難する際に手助けが必要な人を支援する人の確保」(30.0%)となっている。

#### 【日ごろの近所付き合い】(問18、19)

「ほとんど付き合いをしていない」(6.4%)、「あいさつをする程度でそれほど親しくない」(61.5%)、「暮らしのことで話し合ったり助け合ったりしている」(28.2%)となっており、現在の近所付き合いの満足度では、「おおむね満足している」(38.1%)、「どちらともいえない」(35.1%)、「満足している」(17.1%)となっている。

#### 【困り事するとき、近所の人に手助けしてほしいこと/困っている世帯へ手助けを行えること】(問20、21)

「安否確認の声かけ」、「災害時の避難支援」は、近所の人に手助けしてほしいこと、困っている世帯へ手助けを行えることで、どちらも上位となっている。

### ③地域活動について

ボランティアの参加は、「参加している」が約2割にとどまっており、参加には、時間のゆとりや情報が必要。

#### 【ボランティア等の参加状況】（問 23-1 ①）

参加している地域活動では「地域の清掃、美化や地域おこしに関する活動」（79.9%）、「自然環境保護、リサイクルに関する活動」（32.7%）、「消防、防災、防犯、災害支援に関する活動」（22.2%）となっている。

#### 【参加していない理由】（問 23-2 ①）

「仕事や家事で忙しく余裕がない」（36.5%）、「どこで活動しているかわからない」（12.6%）が高くなっている。

#### 【地域活動の継続や参加条件】（問 24）

「時間や経済的なゆとり」（60.7%）、「自分の健康」（55.6%）、「メンバー同士の良好な人間関係」（32.2%）、「ボランティア情報の提供」（20.3%）となっている。

### ④福祉サービスについて

高齢者・低所得者に対する福祉の充実を求める割合が高く、適切なサービス利用のために、福祉サービスの情報提供や総合的な相談窓口の充実が求められている。

#### 【福祉サービスの充実度】（問 26）

「どちらかと言えば充実している」（41.3%）、「どちらかと言えば充実していない」（25.6%）となっている。

#### 【充実していないと思う分野】（問 26-1）

「高齢者に対する福祉」（58.8%）、「低所得者に対する福祉」（44.6%）、「ひとり親家庭、児童福祉、子育て支援」（35.0%）、「障害者に対する福祉」（32.9%）となっている。

#### 【適切な福祉サービスの利用のために優先させること】（問 28）

「福祉サービスに関する情報提供」（32.3%）、「その人に必要な福祉サービス窓口の選択、利用支援をしてくれる窓口」（30.5%）、「福祉施設（施設数や整備数）」（12.9%）となっている。

#### 【つながりと支え合いのある地域社会の実現を目指す上で、住民が取り組むべきこと】（問 30）

「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」（48.5%）、「自治会が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防災・防犯などの問題に取り組む」（35.6%）、「高齢者や障害者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」（27.5%）、「身近な地域で住民の暮らしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす」（25.9%）となっている。

### ⑤各世代との交流について

他の世代の方との交流の機会が「十分にある」の割合は低いものの、交流する場があれば参加したいと思う方は半数。

#### 【交流の機会】（問 31、33）

「全くない」（14.0%）、「少ししかない」（37.3%）、「ある程度ある」（37.7%）、「十分にある」（5.1%）となっており、交流する場があれば参加したいと思うかでは、「思う」（51.6%）、「思わない」（40.4%）となっている。

### ⑥その他

#### 【市が優先して取り組むべき施策】（問 34）

「身近なところでの総合的な相談窓口の充実」（32.3%）、「高齢者、障害者、児童などの福祉施設の整備」（29.0%）、「災害時における地域住民による支援体制の充実」（25.6%）、「住民が共に支え合う仕組みづくりへの支援」（24.9%）、「保健福祉に関する情報提供の充実」（21.0%）となっている。

## （3）福祉関係団体アンケート調査結果の概要

### ①利用者（市民）の生活課題について

障害者支援においては、提供しているサービスについて質・量ともに「十分であるとはいえない」の割合がやや高い傾向にある。

#### 【提供している支援・サービスについて】（問 9）

	サービス量		内容	
	十分である	十分であるとはいえない	十分である	十分であるとはいえない
高齢者支援	47.3%	30.9%	43.6%	30.9%
障害者支援	40.8%	37.8%	36.7%	39.8%
子育て支援・母子福祉	54.8%	26.2%	50.0%	27.4%
その他の活動	47.5%	27.0%	43.4%	27.9%

#### 十分であるとはいえない理由（抜粋）

- ・人材不足
- ・資金不足
- ・提供しているサービスに対してニーズが上回っている
- ・利用者が少ない

#### 十分であるとはいえない理由（抜粋）

- ・スタッフ等のスキルアップ
- ・質を保つための人材育成に課題があり、人員不足になりがち
- ・新しい時代のニーズに応えるノウハウ・情報の欠如、資金不足、輸送手段がない

## ②経営や活動等の課題について

人材確保が活動上の課題であると回答した割合が高くなっている。

### 【活動上、困っていること】（問 13）

「活動メンバーが高齢化してきている」（37.9%）が最も高く、「活動メンバーが不足している」（33.2%）、「リーダーが育たない」（23.4%）、「活動資金が足りない」（18.7%）となっている。

### 【活動の活性化や支援・サービスの質の向上のための課題について】（問 14）

「人材・マンパワーの確保と育成」（57.9%）が最も高く、「活動費・事業費の確保」（42.5%）、「必要な情報の入手や情報交換」（39.3%）、「他機関・団体との連携・ネットワーク」（38.3%）となっている。

## ③交流・連携・協働について

今後、ボランティアグループなど民間の団体との交流や連携を希望。行政に対しては「情報提供」を期待。

### 【交流・連携・協働の状況と今後の意向】（問 15）

順位	現在、交流・協力している団体	今後、交流・協力したい団体	現在、交流・協力している内容	今後、交流・協力したい内容
1	市役所	ボランティアグループ	活動等の日常的な交流・協力	研修等を共同で実施
2	社会福祉協議会	自治会	活動に関する情報交換	イベント等の共同開催
3	学校や教育関係団体	企業などの事業者	イベント等の共同開催	活動等の日常的な交流・協力

### 【行政と協働するうえで、行政が担う役割についての期待】（問 16-④）

「行政がもつ情報の提供」（73.4%）が最も高く、「行政の人材の活用」（56.5%）、「公的な財源の活用」（50.0%）、「公的な調整能力の活用」（41.1%）、「行政の信用度の活用」（29.4%）となっている。

## ④地域活動を活性化させる取り組み

地域活動の活性化には、日ごろからの地域住民の関係づくりや連携のための仕組みづくりが必要。

### 【今後、地域福祉活動を活性化させるために必要な取り組みについて】（問 17）

「隣近所の住民同士の普段からの付き合い」（65.4%）が最も高く、「高齢者や子どもなど地域の見守りが必要な方への日常的な声かけ」（55.6%）、「地域の伝統的な行事や特徴的な取り組みを通じて人のつながりを広げていく」、「地域で活動されている人たちの連携づくり」（46.7%）が上位にあがっている。

### 3 地区別座談会の結果

#### (1) 地区別座談会の概要

##### ①座談会の目的

第2期計画の策定にあたり、地域福祉の推進主体である住民の皆さんの声を直接うかがうため、また、地域の様々な問題をできるだけ地域で協力して解決する『地域福祉』という考え方を広げる「きっかけづくりの場」として、市内6地区にて住民座談会を実施しました。

住民座談会では、地域の現状や課題（良いところ、日常生活での困りごと、自分たちで解決できること）を参加者がグループ作業にて抽出しました。

##### ②対象地区及び実施日

地区名	実施日	会場	参加者数
今 治	平成 27 年8月 11 日(火)	今治公民館	16 人
富 田	平成 27 年7月2日(木)	富田公民館	34 人
日 高	平成 27 年8月 20 日(木)	日高公民館	19 人
大 西	平成 27 年8月 26 日(水)	大西公民館	25 人
菊 間	平成 27 年7月 15 日(水)	菊間公民館	35 人
大三島	平成 27 年8月 31 日(月)	大三島公民館	32 人

##### ③座談会参加者

地区総代、自治会関係者、民生委員・児童委員（主任児童委員）、保育所関係者、老人クラブ、婦人会、小中学校 PTA 関係者、地区消防団、地区公民館（館長） 他



# 今治地区

## (1) 地区の概要

### ■地区データ

人口	高齢化率	年少人口割合	世帯数	民生委員・児童委員 (主任児童委員)
2,190 人	41.1%	7.1%	1,166 世帯	11 人 (2 人)

平成 27 年 3 月 31 日現在

## (2) 座談会からの意見

### 地域の良いところ

- お店や病院、市役所も近く公的機関が多いので生活が便利。
- 緑が多く、公園もあり、気が休まる。
- 今治市の中心で、交通の便も良く、身近な所に何でもある。
- 飲み屋街があり、にぎやかな街。
- 土地が安くて、住みやすい。
- 協力的な人が多く、近所付き合いも多い。
- 気軽に声をかけあえ、顔が見える地域。
- 各住民による掃除当番制によって、道路にゴミがほとんどない。

### 地域の課題

- 交通量が多く、出会い頭の交通事故が多い。
- 車を停める場所が少ない。
- 空き家・空き店舗が多く、商店街もさびれてきた。
- 通り抜けの交通量が増え、土日に人が少ない。
- 少子高齢化が進行し、若い人も帰ってこない。
- 小学校が無くなり、さみしい。
- 海拔が低く、津波が心配。
- 近所付き合いが希薄。(アパートの住民が分からない、町内の世話役がいらない)
- 地区外の人がゴミを捨てていく。

# 富田地区

## (1) 地区の概要

### ■地区データ

人口	高齢化率	年少人口割合	世帯数	民生委員・児童委員 (主任児童委員)
11,537 人	27.1%	14.3%	5,057 世帯	17 人 (2 人)

平成 27 年 3 月 31 日現在

## (2) 座談会からの意見

### 地域の良いところ

- 田畑が多く、海もあり、自然環境が良い。
- 富田小学校の芝生化。
- 子ども見守り隊など防犯体制が整って、安全・安心。
- 交通が便利で、日用品を買うお店も近く、住みやすい。
- 公共施設が充実している。
- 子どもたちが素直で、あいさつも元気が良い。
- 地域のつながりが強い。(近所付き合いや公民館の活動が活発)
- 人が温かく優しい。
- まちの伝統行事があり、古い建物もある。

### 地域の課題

- ゴミ出しのルール違反やポイ捨てをする人がいる。
- 若者が少なく、子どもが減っている。
- ひとり暮らしの高齢者が増えており、老人施設が不足している。
- 荒れた自然が増え、災害が心配。
- 若い人が結婚しない。
- 交通量が多く、交通マナーの問題。
- 転入者と以前から住んでいる人のコミュニケーション不足。
- 新しく来た人たちの自治会活動の参加率が悪い。
- 空き家が増えている。
- 認知症の人の徘徊。

# 日高地区

## (1) 地区の概要

### ■地区データ

人口	高齢化率	年少人口割合	世帯数	民生委員・児童委員 (主任児童委員)
9,947 人	23.8%	15.7%	4,389 世帯	14 人 (2 人)

平成 27 年 3 月 31 日現在

## (2) 座談会からの意見

### 地域の良いところ

- イベントが多く、地域行事が活発で参加者も多いので、地域に活力がある。
- 老人会や公民館等の交流の場が多い。
- 市民の森等の公園が近く、自然環境が豊か。
- 日常生活が便利（スーパー・病院も近い、道路環境）
- 治安が良い。
- 子どもが多い。子育て中の人が増えている。
- 教育環境が整っている。

### 地域の課題

- マンション住人が増え、自治会の加入率が悪い。（今治市で最低）
- 地域行事に関わりたくない人が増えた。
- 自治会の行事が多く、担い手がいない。（特に若い人の参加が少ない）
- スポーツができたり、小さい子が行ける遊び場が少ない。
- ひとり暮らしの高齢者の安否確認。
- 独居老人（引きこもり）の増加。
- 交通量が多く、事故が増えている。（スピードを出す車など）
- ゴミ捨てのマナーが悪い。
- 犬の糞の後始末ができていない。

# 大西地区

## (1) 地区の概要

### ■地区データ

人口	高齢化率	年少人口割合	世帯数	民生委員・児童委員 (主任児童委員)
8,572 人	29.5%	12.5%	3,717 世帯	16 人 (2 人)

平成 27 年 3 月 31 日現在

## (2) 座談会からの意見

### 地域の良いところ

- 伝統文化（継ぎ獅子お祭り）が盛んで、守る意識が比較的高い。
- 人口の年齢バランスがとれている。
- 自然環境が豊かで、災害も比較的少ない。
- 野菜や果物が豊富。
- 大きな国道が通っているため、交通の便は悪くない。
- 造船関連企業など働く場所がある。
- 社協のマイクロバスが福祉団体に無料提供されている。
- 人情が厚く、ボランティア活動が活発。
- 昔から住んでいる人が多く、近所付き合いが密。
- 小学校 1 つ、中学校 1 つなので大西町でまとまっている。
- 「輪い和い親子広場」の子育て支援が充実している。
- 老人クラブなどが活発で、高齢者が元気。

### 地域の課題

- 空き家が増加し、耕作放棄地も増えている。
- 核家族化が進行し、独居老人が多くなっている。
- 下水道の整備が進んでいない。
- 近所付き合いの機会が少なくなっている。
- 防災マップができていない。災害時の不安。
- 高齢化や人口が減って、地域行事の維持や農業の担い手がいない。
- 生活環境が不便。（商店、病院の減少・移動手段の問題）
- 増加した外国人労働者との交流。
- ゴミ出しのマナーが悪い。ゴミの不法投棄。
- 小学校が遠く、通学路の安全確保。
- 各種団体の連携がよくない。
- 旧幼稚園跡地の活用。

# 菊間地区

## (1) 地区の概要

### ■地区データ

人口	高齢化率	年少人口割合	世帯数	民生委員・児童委員 (主任児童委員)
6,297 人	39.8%	8.7%	2,825 世帯	20 人 (2 人)

平成 27 年 3 月 31 日現在

## (2) 座談会からの意見

### 地域の良いところ

- 人が温かく、親切な人が多い。のんびりとしている。
- かわら館やバラまつりに多くの人に来てくれる。
- 自然の豊かさを守っている。(海や山が近い、歌仙の滝がある、空気がきれい)
- 石油精製・販売企業がある。
- 大きな災害がない。
- 菊間祭りなど、地方祭や伝統行事が残っている。
- 食が充実している。(山の幸、海の幸、柑橘などのフルーツ)
- 元気な高齢者が多い。
- 子どものあいさつが、よくできている。
- 近所のつながりが強く、助け合いができています。

### 地域の課題

- 農家の高齢化や後継者不足。
- 空き家が多くなっている。
- 少子高齢化が進行している。人口減少。(独居世帯・独居老人の増加)
- 若者の流出。(若者の職場がない)
- 菊間町のアピール不足。
- お店が少なく、買い物弱者が多い。
- 公共交通が不足し、車がないと移動できない。道路の整備が必要。
- 街灯が少なく、夜は危ない道がある。
- 防災意識が低い。
- 福祉がすみずみまで行き届いていない。
- ボランティアや地域の支え合いが少なくなっている。
- 外から来た人がなじみにくい。

# 大三島地区

## (1) 地区の概要

### ■地区データ

人口	高齢化率	年少人口割合	世帯数	民生委員・児童委員 (主任児童委員)
3,235 人	52.4%	7.3%	1,691 世帯	19 人 (2 人)

平成 27 年 3 月 31 日現在

## (2) 座談会からの意見

### 地域の良いところ

- 地域のつながりが強い。(ふれあいサロン・ボランティア精神)
- 自然環境が素晴らしく、地域資源も豊富。(海が近く、景色が良い)
- 子どもたちが元気にあいさつしてくれる。
- 災害が少なく、安全・安心で生活しやすい。
- 本州にも四国にも比較的便利が良い。
- 食べ物がおいしい。(お米、海の幸、柑橘類)
- 近所付き合いや住民の関わりが深く、人情も厚い。
- 高齢者が多いが、元気な人が多い。
- 文化が守られている。(祭り、大山祇神社、文化施設)
- サイクリングなど観光客も来る。

### 地域の課題

- 高齢化が進み、高齢者の生活へのサポート。(見守り・買い物・ゴミ出し等)
- 仕事場が少なく、若者も県外へ出ていく。
- 主力の1次産業も活気がなくなりつつある。
- 子どもが少なく、後継者不足。伝統文化の継承が困難。(地域の担い手)
- 空き家や荒れた農地が目立ち、美観を損なう。
- 鳥獣被害。
- バスなどの交通の便が悪く、通院や福祉サービスの利用が不便。
- 生活をするうえで橋代がかかること。
- 専門医や緊急時の医療機関がない。
- 物価・ガソリンが高い。
- 若い人の娯楽がない。
- 市域が広く、他とのつながりがない。
- 限られた福祉サービス。幅広い対応が望めない。
- 介護、福祉、保健、医療のネットワークの充実。